

「音楽の力」を信じて、奇跡のオーケストラの話

校長 松本 雅史

今週から10月が始まりました。正門の脇では彼岸花がきれいに咲いています。ドングリの実もなり始めましたね。

今朝は始めに嬉しかったお話をします。先々週の木曜日の下校の時に一人の4年生が校長室にきました。どうしたの？と尋ねると、こんな話をしてくれました。

「図工室前の階段のところに、落ち葉や砂がたくさん風で飛ばされてきてとても汚くなっていました。それを同じ4年生の友達が、すすんで図工室から掃除道具をもってきて、さっと掃除していたんです。誰に言われるのではなく、一人で黙々とやっていたんです。凄い人だととても感動しました！」という内容でした。すぐに2人でそこに行ってみると、その子の姿はすでになく、そして図工室前の階段付近はとてもきれいになっていました。誰に言われるのではなく、自分からすすんでみんなのために行動できるということは、本当に素晴らしいことです。私は、そのとき、6年生が移動教室ですすんでお弁当の容器を種類ごとに集めた時のことを思い出しました。みんなの場所を大切にしよう、できることを知恵を働かせてすすんでしよう、そんな心がいっぱいの子供をつくっていきましょう。

さて、今朝はもう一つお話をします。

かつて、ヨーロッパにユーゴスラビアという国がありました。この国は、もともと6つの共和国からなり、1つの国でありながら言葉も4つもあり、人々が信じている宗教も3つというとても複雑な国でした。そして、その違いはずっと争いのもとにもなってきました。その憎しみを乗り越えて、せっかくひとつにまとまっていた国だったのですが、今から32年前の1991年、自分たちだけの国をつくりたいと願う地域が、国をつくるための戦争を起こしました。こうしたことは、ユーゴスラビアの各地で起こり、その戦争は、せっかく仲よくなろうとしていた人々の心の中から昔の憎しみ合っていた気持ちを思い起こ